

# 事業計画書

1. 事業名称 障害者団体等の農業体験事業

2. 実施主体

■ 団体名： ケア&ファーム

■ 事業担当課： 障害福祉課 ・ 農政課

3. 取り組もうとする課題

課題1： 障害者の就労に向けた準備の場としての農業の活用

- ・ 障害者の農業での就労と言う点では現状では短期的に結果を出すことは非常に難しいと思われるが、本年度行っている農業実習などをベースに、施設などの日中活動拠点のプログラムの一部として活用してもらいながら工賃収入に繋がるようにステップアップの方策を検討して行きたい。また、就労としては厳しい、いわゆる重度の障害者の方には施設などの拠点室内での作業以外の活動場所として、農地と言う環境を活かした「のびのび・いきいき・リフレッシュするための空間」として活用してもらえるように、検討を行って行きたい。

課題2： 農業を通しての家族支援とボランティアや地域とのふれあい

- ・ 今年度事業の中で「障害者と家族農業体験」事業を行い、参加者から御好評の意見を沢山いただいた。当事者や家族からは「家族で気兼ねなく参加できるイベントはうれしい」「健常の子供たちに障害を持った人もいるんだよと知ってもらえる良い機会になった」ボランティアさんからは「本人さんだけでなくご家族とも触れ合えてよかった」などの感想をいただいている。次年度事業では、障害児者と健常児者が同じ活動に参加し草の根的に理解を進めていく場としての活用を含めた内容としていきたい。

4・事業内容及びスケジュール

## 農業実習

今年度は雇用・就労という一段高い課題設定にとられすぎ、また、対象となる人もおのずと絞り込まれてしまう結果となった。障害と一口に言っても軽度の方から最重度の方までとてもスペクトルが広く、就労を目指す人もいれば、施設などに通いながら余暇的な部分を大切にしながらと言う方も当然多くいる。「のびのびと活動する場所」を求める人にも焦点を当てて行きたい。

開催回数 10回開催〈対象者、施設 支援団体等〉

## 出張説明会

今年度事業の反省も踏まえ、チラシなどでのPRだけでなく、少しでも興味をもっていただいた所には出張説明会を出前します。本事業や農業について、パンフレットなどの紙媒体では伝えきれない点が多くあり、活動する内容を一緒にプランニングする。

開催回数 3回を予定〈対象者、親の会や家族等〉

### プレ農作業体験

農業という言葉やイメージを持っていても、実際に畑に行き活動しその環境に接した事のある人は意外と少ないのではないだろうか？ 特に障害を持った人がいつもと違う環境で活動することに本人や親・支援者に不安を感じる人も多いだろう。まず、畑に一度足を運んでいただきたい、そしてその環境を使って活動をする事のイメージを膨らませていただく為の体験プログラムを行う。

開催回数 2回開催予定〈対象者、親の会や施設等〉

### 家族農業体験交流

今年度の事業を実施していく中で、障害児者と健常児者が共に活動することに対する反響が大きく、同じ目的に向かい共に作業を行うことで、自然と理解が深まるようである。また、活動をサポートする大人達との関係も回を追うごとに変化があり、食育と交流の場として次年度以降も引き続き継続される事が望まれている。

さらに、本年度の障害者農業体験プログラムの参加者の中から「もっと少人数で濃い内容の体験や実習を行いたい」との要望があり、親子での少人数体験実習（少人数）のプログラムを組み入れる。

開催回数 8回開催（対象者、障害者とその家族：その他団体）

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月1日～ 6月30	事業の広報 ボランティアの募集 出張説明会	担当課や地域活動支援センターと連携し事業をPR 会合などの情報提供
4月17日	家族農業体験交流（少人数） 畑の準備・夏野菜の植え付けなど	実習圃場 本人・家族等のグループ
4月19日 4月20日	農業実習 ねぎの定植など	実習圃場または協力農家圃場 施設・当事者グループなど
5月3日	家族農業体験交流 水田にて田植えを実施予定	協力農家圃場にて 障害者とその家族 園児など
5月22日	プレ農業体験会 畑に実際に来て実体験をしてもらう。	実習圃場 施設・育成会・当事者グループなど
6月19日	家族農業体験交流（少人数）	実習圃場・ 高校・大学・ボランティアグループなど
6月22日 6月23日	農業実習 草取り・枝豆の出荷 葉取り など	協力農家圃場にて 施設・当事者グループなど
7月1日	プレ農業体験会	実習圃場 施設・当事者グループなど
7月24日	家族農業体験交流	実習圃場及び協力農家圃場

	夏野菜の収穫	育成会・当事者グループ
8月29日	家族農業体験交流（少人数）	実習圃場 当事者グループなど
9月4日	家族農業体験交流 稲刈り	協力農家圃場 育成会 当事者グループ等
9月27日	農業実習	協力農家圃場
9月28日	キャベツ・ブロッコリ定植	施設・グループなど
10月23日	家族農業体験交流（少人数）	実習圃場 育成会・グループなど
11月16日	農業実習	協力農家圃場
11月17日	ねぎ収穫 キャベツ ブロッコリ収穫	
1月22日	家族農業体験交流	協力農家作業場 育成会 当事者グループ
2月7日	農業体験・実習	協力農家圃場
2月8日	カブ収穫・調整	施設 当事者グループなど

9月以降の日程については、8月上旬を目途に再度調整を行う。  
説明会は問い合わせ等の状況に応じ随時日程を調整する。

## 5. 事業に期待する成果

### 農業実習

実習参加者 30人（延べ）

実習協力農家 3件の参加を目標として事業を行う

### 家族農業体験交流（8回のうち4回）

障害当事者・家族の参加者 50家族（延べ）

ボランティア 60名（延べ）

### 家族農業体験交流（少人数制）（8回のうち4回）

障害当事者・家族 16家族（延べ）

今年度、参加していただいた団体・家族の方には、畑・農業地域という環境で活動することの楽しさ、さらには「自分たちがどのように環境を活用できるか」といった思いを持たれた方もいる。来年度は、丁寧なPR活動として出向いての「説明会」や気軽に農場に足を運んで体験していただく「プレ農業体験」を通して、より多くの方に利用してもらえる機会を作る。

就労体験では、例えば、農業に限らず就労を目指す人の就労訓練の場として、バス等の公共交通を使って通勤 農作業実習でコミュニケーションや農家と一緒に作業を行う。このような事を定期的に行い就労へ向けての支援の一環として活用する。重度の方には、広々とした環境でリフレッシュや癒し効果のある作業として、施設の日中プログラムの中で活用してもらおう。などのそれぞれの個人や施設などの個性に合った利用法を構築する。

さらには本年度事業を通し、地域の農家や住民の間にも、障害者が地域で活動をしている事がアピー

ルされ、活動が認知され始めており、また実習でお世話になった高齢農業者にも障害者のイメージに良い方向への変化が起きている。さらに、今年度新たに遊休農地を地域の農家より無償で貸していただき、実習や体験の場として活用させていただいており、事業が継続されることによって、「実習や体験の場の確保」と「遊休農地の適正な管理と有効活用」と言う相乗効果が得られる。

次年度以降も活動することによって、さらに地域への働きかけを進め、障害をインクルージョンする地域コミュニティのきっかけとし、障害者の農業体験と実習の場を提供し「地域で活動する」ことによって社会参加を進めて行く場となる。

## 6. 協働の意義

障害者やその家族 所属する施設が特に農業地域内で活動を進めていく上で、拠点の確保や維持管理・地域との調整などをケアしながら行う事はかなりの困難であり、「行政との協働での事業」といった信頼性も重要な要素となる。活動の場所の確保や地域との信頼関係構築のためにも、当事者・団体・松戸市が協働して事業を進める必要がある。

今年度は拠点農場を中心として農業体験イベント・実習を行い。食育や障害者との交流・相互の理解が深まるなど効果が上がっている。また、農業体験イベントは非常にリピート率も高い。

だが、PRや情報提供の手段に課題もあり、解決をする必要がある。次年度以降は、障害福祉課等と連携を強化することによって、施設等への積極的なPRと共に、親の会やその他のグループにも情報提供し⇒体験の機会の増加へと繋げて行きたい。

また、市内では耕作放棄地の増加が懸念されているが、体験実習の場として市内の遊休農地を確保して活用する予定である。

## 7. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

- ・事業の出張説明会の開催
- ・プレ農業体験の実施
- ・農業実習のコーディネート 実施
- ・親子農業体験イベントの開催
- ・サポーター（ボランティア）の募集 育成
- ・協力農家の募集 サポート

### ■ 担当課の役割

#### 障害福祉課

- ・各プログラムを施設やグループ等に呼びかけ 協働しての情報提供  
(実習現場を実際に施設職員が見学。  
育成会や当事者や親のグループ 施設などへ当団体と共に事業への参加を呼びかける 等)
- ・ボランティア募集の為に助言とサポート
- ・工賃評価方法検討への協力

農政課

- ・ 遊休農地・耕作放棄地 活用のサポート
- ・ 協力農家募集のためのサポート

## 8. 将来の展開

今年度の課題として浮上した情報提供の手段の課題をまずクリアし、より多くの人に農と言う環境を活用してもらいたい。実際に一度体験をされた方はほとんど次回の活動への参加を希望されており、まず一度プログラムに参加してもらうまでのアプローチを解決したい。

将来的には就労もしくはそこまでは行かなくとも、施設等に所属しながらの農の現場と言う外の空間へ出て工賃収入が得られる環境の整備を行って行きたい。また、障害のより重い方にも「癒しやケア」の場所として広々とした『農の空間』の活用が出来るよう「サポートする事業」を継続して行える体制を構築する必要がある。

家族での農業体験への反響がとても多く、これまでの大人数での体験イベント⇒少人数（家族）でのより内容の濃い体験・実習が要望されている。これは障害児者本人へのケアはもちろんのこと、「家族で一緒に汗を流す・みんなで汗をかく」現代社会一般でも貴重な体験の場にもなっている。しかし、障害の当事者を日常からケアしながらのことであり、管理（栽培のアドバイスはもちろん機械での作業など）や地域との調整をノウハウを持った組織がサポートをする必要があり、またそれによってさらに多くの当事者とその家族がより良い時間「スローライフ」を過ごす場を作って行きたい。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金額	積算内訳
	寄付金 10万円 会費 5万円	150,000円	
	自己資金合計（a）	150,000円	
	労力換算額計（b）	401,000円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	500,000円	
	資金合計額（d）（a+c）	650,000円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	指導講師謝礼	180,000円	10,000円×18名
	資料作成委託謝礼	80,000円	20,000円4名
	実習農場管理謝礼	60,000円	5,000円×12回
	実習消耗品	100,000円	実習に使う消耗品 鎌 鍬 鋏など
	事務消耗品	60,000円	印刷用品等事務に伴う消耗品
	作業場及び事務所使用料	120,000円	10,000円×12ヶ月
	対象となる経費合計額（e）	600,000円	
その他経費	スタッフ会議費	25,000円	2,500円×10回
	スタッフ交通費補助	25,000円	1,000円×25名
	その他経費合計額（f）	50,000円	
	事業費（g）（e+f）	650,000円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

## 労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
	農業体験打ち合わせ	96,000円	8名×3h×8回×500円
	定例会議	96,000円	8名×2h×12回×500円
	実習等打ち合わせ	6,000円	2名×1h×6回×500円
	農業体験運営	200,000円	10名×8h×5回×500円
	活動準備	3,000円	1名×6h×1回×500円
	合計 (b)	401,000円	